

サザンクロスルータシステム「AR260S V2」

ファームウェアリリースノート

Version 3.1.0

Ver.3.1.0

下記のとおり機能追加、仕様変更、機能改善が行われました。

本バージョンで追加された機能

1. ダイナミック DNS 機能

ダイナミック DNS サービスに対応しました。端末型インターネットサービスへの接続時に取得した IP アドレスに対応する FQDN(完全修飾ドメイン名)をダイナミック DNS サーバーに登録可能です。

IP アドレスが変更された時は自動でダイナミック DNS サーバーに再登録を行います。

また、IP アドレスの変更とは無関係に、定期的に登録を更新できます。定期更新の周期は 1 日単位で任意に設定できます。対応するダイナミック DNS サービスは DynDNS.com (<http://www.dyndns.com/>) のみになります。

2. UPnP 機能

UPnP クライアントによるポートマッピングルールの追加/削除が可能です。また、ポートマッピングルールのタイムアウト時間を任意に指定することが可能です。

NTT 東日本 VoIP アダプタとの動作を確認済みです。なお、VoIP アダプタは 1 台までしか接続できませんのでご注意ください。

3. ブリッジ機能

IPv6 ブリッジと PPPoE ブリッジをサポートしました。ブリッジ機能と IPv4 パケットのルーティング機能は同時にご利用いただけます。

IPv6 ブリッジ

LAN 側と WAN 側の機器間での IPv6 通信をブリッジします。

PPPoE ブリッジ

LAN 側と WAN 側の機器間での PPPoE 通信をブリッジします。

4. IPsec の機能拡張

TOS 値のコピー機能

暗号化前のパケットの TOS 値を暗号化後のパケットにコピーします。

FQDN peer

ダイナミック DNS 対応により、FQDN で指定されたホストアドレスを持つルーターに対して、本製品をイニシエーターとして IPsec 通信を行うことができます。

NAT-Traversal

IPsec ルーター間に NAT 装置が存在する場合でも、本製品をイニシエーターとして IPsec 通信を行うことができます。

5. NAT の機能拡張

ICMP-ID 処理

ICMP-ID の NAT 変換に対応しました。これにより、LAN 側の複数のクライアントからの ICMP パケットの NAT 変換が可能になりました。

パススルーの対象トラフィックの追加

[ファイアウォール/NAT] [NAT 設定] [NAT]において、パススルーの条件として、本製品が送信するパケット(IKE/ESP)を指定できるようになりました。UDP ポートの 500 番を本製品に予約し、本製品から IPsec 通信を行うことが可能になります。

本バージョンで仕様変更された機能

1. DNS キャッシュポイズニング脆弱性対策

JVNVU#800113「複数の DNS 実装にキャッシュポイズニングの脆弱性」の対策を実施しました。DNS リレーで WAN 側に送信される DNS query パケットを固定の送信元ポート番号ではなく、パケットごとにランダムな送信元ポート番号で送信するよう変更しました。

2. ファイアウォール、NAT セッション保持時間の設定追加

DNS キャッシュポイズニング対策に伴い、[ファイアウォール/NAT] [アドバンス設定] [タイムアウト設定]に DNS の設定項目を追加しました。また、これにあわせて、以下の項目のタイムアウト設定についてデフォルト値の見直しを行いました。

変更前

DefaultTcp : 600(秒)

TcpReset : 20(秒)

変更後

DefaultTcp : 300(秒)

TcpReset : 5(秒)

DefaultDNS : 20(秒、新規追加)

3. Web GUI に関する変更

Web GUI に対して以下の修正、および改善を行いました。

かんたん接続に、UPnP/ブリッジの設定画面を追加しました。

かんたん接続で設定される NTT 東日本のフレッツ・スクウェアの経路情報を更新しました。

かんたん VPN に、ダイナミック IP アドレス同士の接続形態を追加しました。

再起動時のカウントダウンを 60 秒から 80 秒に変更しました。

本バージョンで改善された項目

1. IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、そのサブネットにおけるディレクテイドブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできませんでしたが、これを改善しました。
-